

大阪市立阿倍野小学校 第5回ICT公開授業

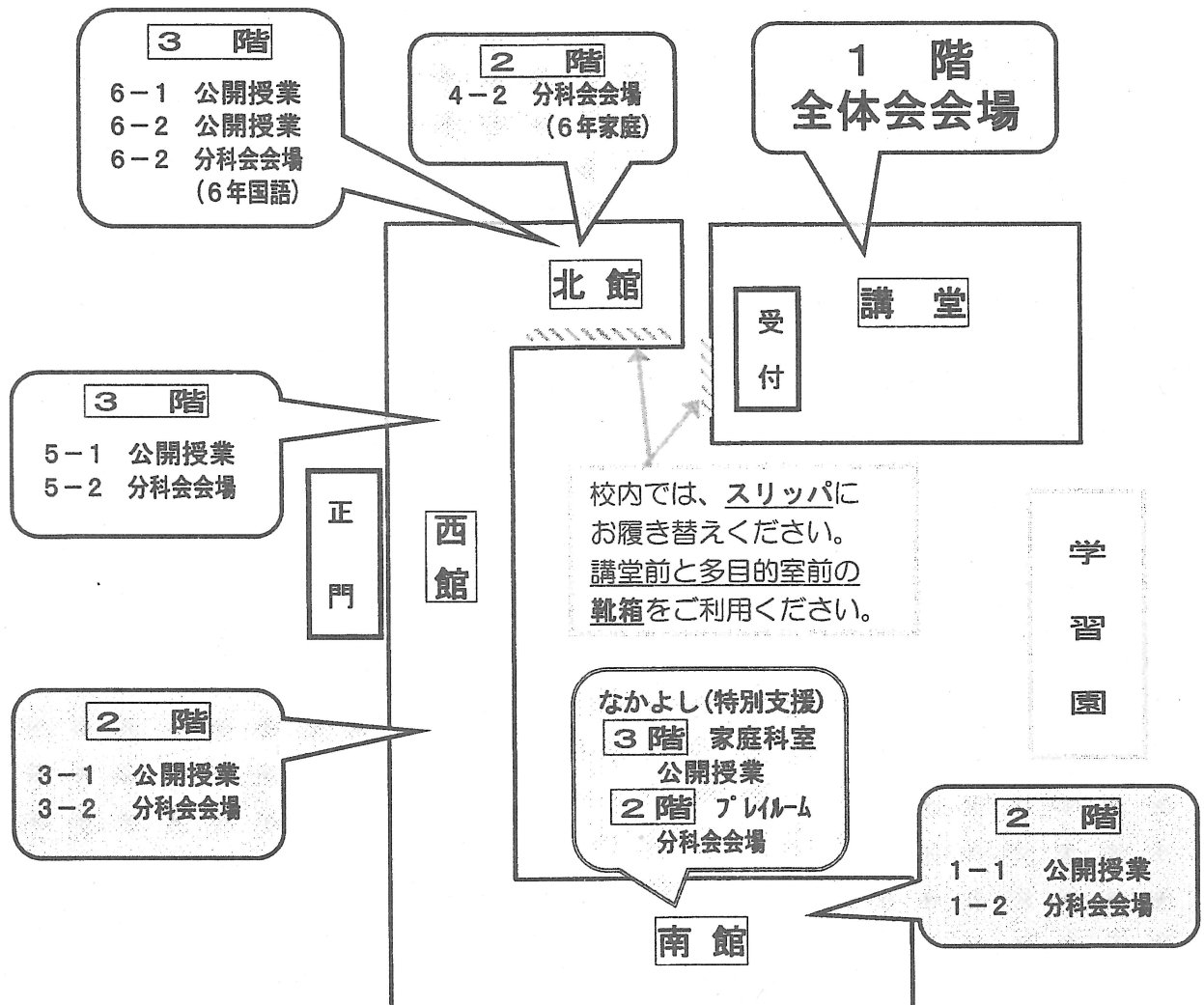
研究主題

ともに学び合い、学びを深める子どもの育成
 — ICTを活用して、教育の質を高めよう —

【時 程】

1:10	1:30	1:45	1:50	2:35	2:50	3:30	3:40	5:00
受 付	全体会 (講堂)	移動	ICT 公開授業 (各教室)	移動 休憩	分科会 (各教室)	移動 休憩	全体会 (講堂)	
	・本日のICT 活用のポイント							
			使用機器 電子黒板 iPad 等		機器・アプリの 説明と体験 質疑 応 答		報告「タブレット端末の 導入にあたって取 り組んだこと」 指 導 助 言	

【会場図】



参観者の皆さまへ

本日は、本校の公開授業にお越しいただき、ありがとうございます。

参観にあたって、次の点にご留意ください。

1. 授業も含めて、**校内の写真撮影・ビデオ撮影**は、次の点をお守りいただくことを前提に許可します。
 - 子どもの顔は、なるべく撮らないようにしてください。
 - フラッシュは使用しないでください。
 - 撮影した写真や動画は、個人または、所属する機関での研究目的にのみ使用してください。
 - 子どもや教職員が特定できる写真や動画を、ネット上にアップしないこと。これについては、いかなる理由があっても許可できません。
 - 授業風景を動画配信サイトなどにアップしないこと。
 - 教室内の作品についても、個人が特定される原因となりますので、同じ扱いとさせていただきます。

※ 撮影された被写体に係る肖像権に関しては、本人並びに本校に属しております。注意事項に反し、または非社会的な目的に利用された場合は、法的な手段により取り下げを要求します。
2. 授業中にむやみに子どもに接近するなど、子どもの注意力を阻害するような行動はお控えください。
3. 教室はたいへん混み合います。入口付近に固まらず奥にお進みください。
4. 携帯電話、スマートフォンはマナーモードにしてください。
また、「Bluetooth」「Wi-Fi」機能をオフにしてください。
5. 授業中、ICT 機器などが動作不良になった場合、指導者の判断で使用を中止し、授業をすすめる等もありますので、ご理解ください。
6. 休み時間等では、子ども達の動線にお心遣いください。

ようこそ 阿倍野小学校 ICT 公開授業へ

紅葉の候、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では、平成25・26年度大阪市教育委員会「学校教育ICT活用事業」モデル校の指定を受け、「ともに学び合い、学びを深める子どもの育成」を研究主題に、ICT活用による教育的効果の検証に取り組んできました。本日、公開授業を開催しましたところ、ご参会いただきありがとうございました。ここに謹んでお礼申し上げます。ICT活用と指導の更なる充実を図るべく、皆様からご教示いただいたことを生かしまして、さらに研究を積み重ねていく所存でございます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大阪市立阿倍野小学校長 民辻 善昭

【全体会Ⅰ】 (1:30~1:45) オリエンテーション。公開授業のポイントを紹介します。

【公開授業】 (1:50~2:35)

○ 基本使いの授業・・・ICT機器の基本的な機能を活用した授業

場 所	学年教科等	単 元 ・ 内 容	授 業 者	ICT 活用の場面	活用機器	頁
3-1	3年社会	店ではたらく人々のしごと	笹井 謙	■導入 ■展開 □まとめ	電子黒板 iPad	9

○ 応用使いの授業・・・自作のICT教材やアプリを活用した授業

場 所	学年教科等	単 元 ・ 内 容	授 業 者	ICT 活用の場面	活用機器	頁
1-1	1年生活	みんな みんな 大すきだよ	有本 淳	■導入 ■展開 ■まとめ	電子黒板 iPad mini	5
5-1	5年算数	面積の求め方を考えよう	春山 陽子	■導入 ■展開 □まとめ	電子黒板 iPad	13
6-1	6年家庭	弁当プロジェクト	大上 香奈子	■導入 ■展開 ■まとめ	電子黒板 iPad	17
6-2	6年国語	海のいのち	石井 優子	□導入 ■展開 □まとめ	電子黒板 iPad	21
家庭科室	特別支援生活単元	たべたいなポップコーン	河野 悦子	■導入 ■展開 ■まとめ	電子黒板 iPad mini	25

【分科会】 (2:50~3:30)

分科会	会 場	内 容		
1年生活	1年2組	・ 本時のICT活用のポイント説明 ・ 質疑・意見交流	体験コーナー	iPad mini (ロイロノートなど)
3年社会	3年2組			iPad (SKYMENUなど)
5年算数	5年2組			iPad (SKYMENUなど)
6年家庭	4年2組(北館2F)			iPad (MetaMoji Noteなど)
6年国語	6年2組			iPad (Keynoteなど)
特別支援	プレイルーム(南館2F)			iPad mini (ロイロノートなど)

【全体会Ⅱ】 (3:40~5:00 於：講堂)

報 告 本校教員・ICT支援員

「タブレット端末の導入にあたって取り組んだこと」

指導助言 大阪教育大学教授 木原 俊行 先生

研究の概要

1. 今年度の研究主題と主題設定について

研究主題 「ともに学び合い、学びを深める子どもの育成」 —ICTを活用して、教育の質を高めよう—

本校の目指す子ども像＝「主体的に問題に取り組み、協働的な学びを通して、自分の考えをしっかりと持ち、それを豊かに伝える子ども」

上述のような子どもを育成するために、以下の研究仮説を設定する。

<研究仮説>

- ① 問題解決的な学習活動の各段階で、効果的、効率的に ICT を活用して学習活動の充実を図ることにより、子どもの問題解決活動がより主体的になり、協働的な学びを深め、表現力を高めることができる。
- ② 授業以外の多様な学校生活の場面で ICT を活用することにより、基礎的な学力の向上や、子どものさまざまな学びの過程の記録に寄与し、学びの質を高めることができる。
- ③ 指導者が ICT を効果的に活用するスキルを高めたり、ICT に関する機器や人材、運用上の約束事を整備したりすることにより、上記2点の仮説を基に効果的に研究を進めることができる。

上述の研究仮説を受けて、以下の4つの研究の視点を設定する。

<研究の視点>

- ICTを活用した授業づくり
 - ・問題解決的な学習の中のどの場面で ICT を活用し、どのような効果を狙うか
 - ・教科の特性に応じて、どのような ICT 活用ができるか
 - ・ICT の新たな活用法を模索する提案型授業と、ICT の「普段使い」に特化した授業を並立して発信
- 授業以外での ICT の活用
 - ・どんな場面(朝、家庭学習、校外活動…)で、どのように活用できるか
 - ・家庭へ持ち帰っての ICT 活用の模索
- 教員の ICT 研修
 - ・いつ(定期的、適宜、長期休業時…)、どこで(校内、他校、他施設…)、だれが、どのように進めていくか
- 情報活用能力の育成
 - ・情報モラルを含めた、広い意味での情報活用能力を高めるための方策を模索

2. 研究の組織について



- ・上記とは別に、教職員全体で共通理解を図る特別委員会として、**研究推進委員会**(研究部・学年主任・特別支援教育コーディネーター・習熟度担当(1名))と**研究全体会**(全教職員)を設置する。

3. 研究の内容について

＜ICTを活用した授業づくりの基本的考え方＞

○ 問題解決的な学習の流れ

子どもの主体的な学びを実現するために、単元構成や授業の学習過程において、問題解決的な学習の流れに沿って構成することを基本とする。導入：「学習問題の設定」＝展開：「学習問題の追究～解決」＝終末：「学習問題の結論の吟味」の3段階を基本的な流れとする。

○ ICT活用のねらい

問題解決的な学習の3段階の流れの中の、「どの段階」で「どんな力」をつけさせたいかを考え、そのために有効なICTの活用法を模索する。

○ 教科の特性に応じたICTの活用

各教科のもつ特性をより活かしたり、特性に合わせたりする形でのICTの活用を工夫する。例えば、体育や音楽、図画工作など、体験的活動が不可欠な教科では、ICTの活用によって、より良い活動のイメージが持てるようにする、理科や社会科など事象について働きかけ、考える教科では、ICTの活用によって、事象をより具体的に把握したり、調べやすくしたりする、など、指導計画を立てる段階から、教科ごとの特性に応じたICTの活用法を模索する。

【問題解決的な学習の基本的流れ】

【ICTを活用する主なねらい（例）】

導入

①学習問題を設定する場面

- ・学習問題に気づく
- ・学習問題に対して予想する
- ・予想を確かめる方法を考える

展開

②学習問題を追究～解決する場面

- ・必要な資料を収集し、分析する
- ・実験や観察、調査などに取り組む
- ・明らかになったことを整理する

終末

③学習問題の結論を吟味する場面

- ・個々が解決したことを発表し合う
- ・学習問題に対する考えをまとめる
- ・残された課題を明確にする
- ・実践化を図ったり、別の事象にあてはめたりする

○疑問や驚きなどから問題意識を高め、問いを内発させることができる

○学習問題を探求しようとする関心・意欲を高めることができる

○学習問題に主体的・意欲的に取り組むことができる

○協働的な学びを深めることができる

○追究活動を効率的に進めることができる

○学習内容をより深く定着させることができる

○表現力を高めることができる

○プレゼンテーション能力を養うことができる

◎ 授業におけるICT機器活用パターン

（基本使い）…通常授業の中の一部で（主として指導者が）ICT機器の特性を活用するような授業。ICT機器があることで、授業の効率化や明確化を図る等の有用性を示すことができる授業。

（応用使い）…指導者がICTを用いて教材を作成したり、子どもが積極的にアプリを使って問題解決を行ったりするような授業。ICT機器があることによって成立する授業形態。

第1学年 生活科 学習指導案

授業者 有本 淳

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導 入 ■展 開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児 童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	□資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) ■プレゼンテーション等の作成
活 用 機 器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ 書画カメラ ）
活用コンテンツ等	○ ロイロノート ○ カメラファイル
ICT 活用のポイント	○ 仕事に取り組む様子を写真や動画で提示しながら発表することで、発表内容を具体的なものにすることができる。

- 1 学年・組 第1学年1組 計35名
- 2 場 所 1年1組教室
- 3 単 元 名 「みんなみんな大すきだよ」
- 4 目 標

○ 家庭生活は、家族の仕事や家族の協力によって支えられていることに気づき、家族の一員として自分のできることを考え、進んで自分の役割を果たすとともに、規則正しい生活を送ることができる。

5 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
家庭での生活や家族のことを調べることにについて、興味・関心をもって取り組み、自分にできる役割を行い、規則正しく健康に気をつけて生活する。	家族のことや自分でできることを考え、家庭や家族のことについて調べたことや体験したことをまとめたり表現したりできる。	家庭生活は、家族の仕事や家族の協力によって支えられていることに気づいている。

6 指導計画（全9時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での仕事について知っていることを話し合う。 ・自分を中心にして、家族がどのようなことをしてくれているのかを図に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での仕事についてのイメージを持たせるために、指導者が家庭の仕事に取り組む様子を写真に撮っておき、それを提示する。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭では、さらにどのような仕事があるのかを調べる計画を立てる。 ・家庭で調べてきたことを、「仕事内容」「誰が行うのか」「いつ行うのか」に分けて、表にまとめる。 ・自分にもできる仕事や、挑戦したい仕事について話し合う。 	

2	3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でやってみたい仕事を紹介し合い、やってみたい仕事別のグループをつくる。 やってみたい仕事について、学校で練習し、家庭で実際に行う計画を立てる。 やってみたい仕事に必要なものを持ってきて練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で仕事をしている様子を写真や動画で発表するという活動を通して、仕事に挑戦する意欲を高めるようにする。 iPad で仕事をしている様子を撮影し、反省や振り返りの話し合いのときの参考にする。
3	6 7(本時)	<ul style="list-style-type: none"> 発表用の原稿を作成する。 ロイロノートの使い方について学ぶ。 実際に家庭で行った仕事の写真や動画を活用して、発表のための提示資料をつくる。 グループ内で発表し、よりよいものに改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事に取り組む様子を写真や動画で提示しながら発表することで、発表内容を具体的なものにする。
	8	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でやってみた仕事を学級の人に発表する。 友だちのやってみた仕事を見て、さらにできることはないかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事に取り組む様子を写真や動画で提示しながら発表することで、発表内容を具体的なものにする。
4	9	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の仕事で継続して行うものを決め、記録していく計画を立てる。 ———継続して行ったことを記録する。——— 継続して行ったことや感想を発表し合う。 	

7 本時の学習

(1) 目 標

- 家庭で挑戦した仕事について撮影した写真や動画を持ち寄って、グループで発表用の提示資料を作成することができる。また、マーキングを活用することでわかりやすい発表を目指すことができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
	はっぴょうのじゅんぴをしよう			
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の活動について確認する。 家庭で撮影してきた写真や動画を確認する。 写真や動画をロイロノートでつなぎ、発表の提示資料を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者用 iPad を用いて、ロイロノートの使い方や、映像等のつなぎ方を電子黒板に投影することで前時の活動を想起しやすくする。 	電子黒板 ・写真ファイル ・動画ファイル iPad（指） iPad（児）	【関心・意欲・態度】 ・本時の学習に意欲的に取り組もうとしている。 （行動・発言）
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事別のグループに分かれてプレゼンテーションを作成する。 それぞれが撮影してきた写真や動画をロイロノートでつなぐ。 強調したい箇所があれば、マーキングを活用する。 ○ 原稿を読みながら写真や動画を提示し、発表の練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事に取り組む様子を写真や動画で提示しながら発表することで、発表内容を具体的なものにする。 前時に作成している原稿を読みながら、ロイロノート进行操作し、発表の練習を行う。 	電子黒板 iPad（指） iPad（児）	【思考・表現】 ・家庭での挑戦を写真や動画をもとにわかりやすく説明できている。 （グループ発表）

	○ 原稿とプレゼンテーションの不具合を修正する。 ・表示時間を修正したり、マーキングを活用して強調したりする。	う。		
まとめ	○ それぞれのグループの進捗状況を確認する。 ・発表できるグループがあれば、リハーサルとして、みんなの前で発表する。	・挑戦した仕事を発表するときに、言葉だけでなく、写真や動画を交えることで、仕事の内容をわかりやすくすることができる。	電子黒板 iPad（児）	【関心・意欲・態度】 ・次時の発表に意欲的に取り組もうとしている。 （行動・発言）

（３）板書計画

いえで、どのようなしごとにちょうせんできるだろうか。

はっぴょうのじゅんぴをしよう

（しごと）
→
（はっぴょう） ろいろのおと

- ・せんたくたたみ
- ・うわぐつあらい
- ・ふろそうじ
- ・こめあらい など

1. はっぴょうのじゅんばんをきめる。
2. シャしん どうがをつなぐ。
3. どうがのあとには「てきすとかあど」を入れる。
4. げんこうをよみながらろいろのおとをうごかしてみる。
5. やりなおす。

電子黒板

第3学年 社会科 学習指導案

授業者 笹井 謙

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 □まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ SKYMENU ○ 写真ファイル ○ 動画ファイル
ICT 活用のポイント	○ 調べたことを SKYMENU でスライドにして提示することで、見学で分かったことを視覚的に分かりやすく伝えることができる。 ○ 店の人の話を動画ファイルで提示することで、自分達の考えを働く人の思いと比較しながら確かめることができる。

- 1 学年・組 第3学年1組 計27名
- 2 場 所 3年1組教室
- 3 単 元 名 「店ではたらく人々のしごと」
- 4 目 標

- 地域の人びとの販売の仕事について関心をもち、仕事の様子を見学したり、仕事に携わっている人々から話を聞いたりして、販売の仕事に見られる工夫や特色について調べることができる。
- 地域の人びとの販売の仕事の様子や、買い物をする時の様子について調べ、販売者や消費者のさまざまな工夫について考えることができる。
- 地域の人びとの販売の仕事が自分たちの生活を支えていることや、人や物によって他の地域と関わりがあることについて理解することができる。

5 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
地域の人びとの販売の仕事の工夫や努力について関心を持ち、家庭での買い物や販売店での販売の様子を意欲的に調べている。 個々の家庭での買い物の工夫に関心を持ち、一消費者の立場で実践しようと努力している。	販売店が多くの買い物客を集めるために様々な工夫をしていることを、販売者と消費者の立場から考え、表現している。 販売店の様子や商品を通じた他地域とのつながりについて、自分達の生活と関連付けて考え、適切に表現している。	地域の販売店を、調べる視点を明確にして見学し、グループで協力しながら発表用の資料にまとめている。 学習して分かったことについて、要点を明確にしながら、新聞にまとめている。	地域の販売店が様々な工夫をしながら販売活動をしていることで、自分達の生活が支えられていることを理解している。 買い物客や商品の動きについて、自分たちの地域が消費生活を通して他地域と関わりがあることを理解している。

6 指導計画（全13時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T 活 用 の ポ イ ン ト
1	1	・家庭での買い物の様子を調べ、よく買う品物や利用する店の種類について話し合う。	・店舗や商品などの写真を電子黒板で提示し、買い物の様子を想起できるようにする。
	2	・学級全員の買い物調べの結果をまとめ、学級全体の買い物の傾向について話し合う	・買い物調べの結果を Excel に打ち込み、表とグラフの資料を即時に作成して電子黒板で提示し、その特徴から買い物の傾向を考えることができるようにする。
2	3	・よく利用される店の種類について、その理由を考え、見学の計画を立てる。	・前時に作成した表とグラフの資料を電子黒板に提示し、買い物によく利用される店の種類を明確にする。
	4	・見学の視点ごとのグループに分かれて、地域の店（スーパーマーケット）を見学する。	・iPad を活用して店舗の様子を撮影したり、店の人へのインタビューを記録したりする。
	5	・見学で分かったことをグループで話し合い、まとめる。	・SKYMENU で見学の写真に気づいた事や分かった事をマーキングして、他グループに向けての発表資料を作成するようにする。
	6 7		
3	8 (本時)	・スーパーマーケットの販売の工夫について調べ、販売者がさまざまな工夫をしている理由について考える。	・SKYMENU で作成した発表資料を電子黒板に提示し、グループで調べたことを分かりやすく発表できるようにする。
	9	・買い物をする時の工夫について調べ、消費者として留意すべき事柄について考える。	・販売店の人の話の動画ファイルを電子黒板で視聴し、販売店の人々の工夫や努力について考えることができるようにする。
4	10	・商品の産地を調べて、自分たちの地域と他地域とのつながりについて考える。	・値段の異なる商品や、商品の成分表示などの写真資料を電子黒板で提示し、買い物をする時の工夫について考えることができるようにする。
	11		・iPad を活用して地域にあるスーパーマーケットの web チラシを調べ、多種多様な商品の産地について調べることができるようにする。
5	12	・学習を振り返って、販売店や消費者の工夫、商品の産地などを新聞にまとめる。	・電子黒板で日本全図白地図を提示し、都道府県名と位置を明確にしながら商品の産地を調べ、自分たちの地域と他地域とのつながりについて考えることができるようにする。
	13		・MetaMoji Note を活用して、一人一人が調べた内容をグループで1枚の新聞に仕上げ、気づいたことを分かりやすく表現することができるようにする。

7 本時の学習

(1) 目 標

- スーパーマーケットの販売の様子を調べ、販売者が多くの買い物客を集める工夫をしていることを、販売者・消費者の立場から考えることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ スーパーマーケットの販売の様子について話し合う。 ・売り場や商品 ・施設や設備 ・働く人々	・見学時の写真を電子黒板で提示して3つの見学の視点を想起させ、調べたことを発表する意欲を高める。	電子黒板 ・写真ファイル	【関心・意欲・態度】 ・本時の学習問題に意欲的に取り組もうとしている。 (行動・発言)
「阪急オアシス」のひみつを見つけよう				
展 開	○ スーパーマーケットの販売の工夫について調べる。 ＜売り場・商品＞ ・種類ごとに分かれた売り場 ・特売品が目立つ値札 など ＜施設・設備＞ ・カート、買い物かご ・回収ボックス など ＜働く人々＞ ・商品を並べる人 ・レジを打つ人 など	・SKYMENUを活用して、見学時に見つけたスーパーマーケットの様々な工夫を視点別グループごとに分かりやすく示し、学級全体で共有できるようにする。	電子黒板 iPad (児) ・SKYMENU	【思考・判断・表現】 ・調べて気づいたスーパーマーケットの工夫を、資料をもとに分かりやすく説明している。 (グループ発表)
開	○ スーパーマーケットが様々な販売の工夫をしている理由を考える。 ・多様な品物を、より安く、大量に供給 ・新鮮で安全な品物の供給 ・消費者の利便性 ・消費者の満足感	・販売の工夫をする理由について、SKYMENUで他グループの資料を確認しながら考え、学級全体で交流する。その後、販売店の人の話の動画ファイルを電子黒板で視聴し、自分達の考えを販売店の人の思いや願いと比較しながら確かめることができるようにする。	iPad (児) ・SKYMENU 電子黒板 iPad (指) ・動画ファイル	【思考・判断・表現】 ・スーパーマーケットの様々な工夫を、販売者と消費者の立場から考えている。 (発言)
ま と め	○ 買い物をする時にどんなことに気を付ければよいか話し合う。 ・値段 ・量 ・品質 など			【関心・意欲・態度】 ・消費者として工夫しながら買い物しようとしている。 (行動・発言)

(3) 板書計画

㊦ 「阪急オアシス」のひみつを見つけよう

＜電子黒板＞

● いろいろなくふうをしているわけ

売り場・商品

- ・しゅるいごと → 目立つねふだ
- ・ラップでくるむ・あん内表示
- ・し食コーナー・おかず

しせつ・せつひ

- ・カート・買い物かご
- ・回しゅうボックス・スロープ
- ・ちゅう車場・ちゅう輪場

店の人

- ・商品を調べ、ならべる
- ・調理する
- ・レジをうつ

多くの品物を用意

新せんで安全な品物

買い物しやすい(楽、早い)

安い品物

㊦ スーパーマーケットでは、お客さんによろこんでもらうため、安くてよい品を安全に気をつけてたくさん用意し、買い物しやすいくふうをたくさんしている。

第5学年 算数科 学習指導案

授業者 春山 陽子

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 □グループ学習 ■個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 □まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) ■自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り ■記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ 書画カメラ ）
活用コンテンツ等	○ SKYMENU ○ Keynote ○ MetaMoji Note
ICT 活用のポイント	○ SKYMENU を活用し、一人一人の考えを見通しごとにフォルダへまとめ、お互いの考えを共有できる環境を作る。また、ヒントカードのフォルダを作ること、学習につまずきのある子どもが自由に見ることができる。 ○ 自分の考えた方法を、相手にわかるようにまとめることができる。

- 1 学年・組 第5学年1組 計33名
- 2 場 所 5年1組教室
- 3 単 元 名 「面積の求め方を考えよう」
- 4 目 標

- 図形を分解したり、合成したりする具体的な操作を通して、基本的な面積の求め方を調べることができる。
- 平行四辺形、三角形、台形、ひし形の面積を求めることができる。
- 求積の公式に関連して、平行四辺形や三角形の底辺・高さ、台形の上底・下底・高さの意味を理解することができる。

5 単元の評価規準

算数科への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
基本的な図形の面積に関心を持ち、その求め方をくふうして調べようとしている。	平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を、既習の図形の求め方をもとに考えている。	平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積を公式を使って求めることができる。	求積公式を使った平行四辺形、三角形、台形ひし形などの面積の求め方を理解している。

6 指導計画（全 14 時間）

次 時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1 ・学習の見通しを立てる。 ・長方形や正方形の求め方をふり返る。	・電子黒板で資料を提示することで、既習の学習のふり返りを共有することができる。
	2 ・平行四辺形の面積の求め方を考える。	・MetaMoji Note に実際に作業しながら考えた方法をまとめ、SKYMENU 内の見通しごとのフォルダに送ることで、考えを自由に共有できる。また、ヒントカードを自由に見ることができる。

	3	・平行四辺形の面積を求める公式をつくる。	・前時の考え方を電子黒板で提示し、比較、分類、整理することで公式につなげるようにする。
	4	・平行四辺形の面積と底辺と高さの関係について考える。	・電子黒板で問題を提示し、全体で共有する。
2	5 (本時)	・三角形の面積の求め方を考える。	・電子黒板で問題を提示し、全体で共有する。 ・MetaMoji Note に実際に作業しながら考えた方法をまとめ、SKYMENU 内の見通しごとのフォルダに送ることで、考えを自由に共有できる。また、ヒントカードを自由に見ることができる。
	6	・三角形の面積を求める公式をつくる。	・前時の考え方を電子黒板で提示し、比較、分類、整理することで公式につなげるようにする。
	7	・高さが外側にある三角形の面積を求める。	・電子黒板で問題を提示し、全体で共有する。
	8	・三角形の面積と、底辺と高さの関係について考える。	・電子黒板で問題を提示し、全体で共有する。
3	9	・台形の面積の求め方を考える。	・電子黒板で問題を提示し、全体で共有する。 ・MetaMoji Note に実際に作業しながら考えた方法をまとめ、SKYMENU 内の見通しごとのフォルダに送ることで、考えを自由に共有できる。また、ヒントカードを自由に見ることができる。
	10	・台形の面積を求める公式をつくる。	・前時の考え方を電子黒板で提示し、比較、分類、整理することで公式につなげるようにする。
	11	・ひし形の面積の求め方を考える。	・電子黒板で問題を提示し、全体で共有する。 ・MetaMoji Note に実際に作業しながら考えた方法をまとめ、SKYMENU 内の見通しごとのフォルダに送ることで、考えを自由に共有できる。また、ヒントカードを自由に見ることができる。
	12	・ひし形の面積を求める公式をつくる。	・前時の考え方を電子黒板で提示し、比較、分類、整理することで公式につなげるようにする。
	13	・一般四角形の面積の求め方を考える。	・電子黒板で問題を提示し、全体で共有する。 ・MetaMoji Note に実際に作業しながら考えた方法をまとめ、SKYMENU 内の見通しごとのフォルダに送ることで、考えを自由に共有できる。また、ヒントカードを自由に見ることができる。
	14	・方眼を使って不定形の面積を求める。	・電子黒板で問題を提示し、全体で共有する。
4	15	・学習のまとめをする。	

7 本時の学習

(1) 目 標

- 三角形の面積を長方形や平行四辺形と関連づけて求めることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T 活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の問題を電子黒板で提示し、全体で共有する。 	電子黒板 ・デジタル教科書	【関心・意欲・態度】 ・本時の学習課題について意欲的に考えようとしている。 (行動・発言)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 三角形の面積の求め方を考えよう </div>			
展 開	○ 見通しをもとに、三角形の面積の求め方を考える。 ○ 考え方を発表する。 ○ 三角形の面積の求め方について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に作業して考えた方法をカメラ機能を使って保存し、MetaMoji Note にまとめ、SKYMENU 内のフォルダに送り、自由に共有できるようにする。また、ヒントカードも自由にみることができるようにする。 ・それぞれの考えを電子黒板で提示し、全体で共有する。 	iPad (児) ・SKYMENU ・MetaMoji Note ・Keynote 電子黒板 iPad	【数学的な考え方】 ・既習の図形に帰着して、三角形の面積の求め方を考えることができる。 (行動・観察)
ま と め	○ 本時の学習のまとめをする。			【知識・理解】 ・三角形を等積変形や倍積変形して、面積を求める方法を理解している。 (行動・発言)

(3) 板書計画

㊦ 三角形の面積の求め方を考えよう	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; min-height: 150px;"> 電子黒板 </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> ㊦ 長方形に変形する ㊦ </div> <div style="width: 100%;"> 平行四辺形に変形する </div> <div style="width: 100%; margin-top: 20px;"> ㊦ </div> </div>

第6学年 家庭科 学習指導案

授業者 大上 香奈子

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導 入 ■展 開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児 童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り ■記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活 用 機 器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ SKYMENU ○ MetaMoji Note
ICT 活用のポイント	○ 記録写真(運動会の弁当)を SKYMENU に保存し、互いの弁当を見ることができ、作りたいおかずの選択肢を広げることができる。 ○ MetaMoji Note の写真編集機能を使うことで、入りたいおかずにお写真を並べたり、必要に応じて入れ替えたすることができる。また、実際の弁当のイメージにつなげやすくする。

- 1 学年・組 第6学年1組 計29名
- 2 場 所 6年1組教室
- 3 単 元 名 「弁当プロジェクト～フードコーディネーターたちの挑戦～」
- 4 目 標
 - 栄養のバランスや彩りを考え、1食分の献立を立てることができる。
 - 身近な食品を用いて調理計画を立て、簡単なおかずを作ることができる。
 - 日常の食事の大切さに気づき、楽しく食事をしようとするすることができる。
- 5 単元の評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
毎日の食事に関心を持ち、1食分の献立を立てようとしている。	栄養のバランスを考え、食品を組み合わせ、1食分の献立を考えたり自分なりに工夫したりしている。	材料や目的に応じたゆで方やいため方ができる。	栄養のバランスを考えた1食分の献立の立て方について理解している。

6 指導計画(全 12時間)

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	0	・弁当素材を集める。	・運動会の弁当を iPad のカメラ機能で記録し、SKYMENU に保存する。
	1	・バランスのよい献立を考える。	・教科書の挿絵を iPad 上で動かせるようにして、内容を視覚的に捉えることで、理解につなげることができる。

	2 3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・弁当のこん立てを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・MetaMoji Note を活用し、プロジェクトチームで SKYMENU に保存された弁当素材を選び、弁当箱の中につめていく。写真を使用するので、作りたいおかずが明確になる。絵を描くことが苦手な子どもも自分の考えを表現しやすい。また、栄養のバランスや彩りを考える上で、変更しやすい。
	4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養のバランスを見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで考えた SKYMENU に保存した弁当を全体で交流し、他のチームの弁当を確認することができ、自分たちの弁当作りの参考にすることができる。
2	6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・MetaMoji Note に作成した弁当を見ながら、必要な食材を考える。調理の仕方が分からない場合は、インターネットを利用して調理方法や調味料の分量などを探す。また、弁当素材の持ち主に聞き取りに行く。
	8 9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・弁当を作る・食べる。 	
3	12	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と楽しく食事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習で作られたそれぞれのチームの弁当を SKYMENU に保存し、互いに見ることができるようにする。自分が家庭でできることを考える。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 栄養のバランスや彩りを考え、1食分の献立を立てることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・弁当の主食、主・副菜の割合 ・栄養バランス ・彩り ・衛生面 ○ チーム名を発表する。 (チーム名に弁当のテーマが入っていること) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板で弁当の例を提示する。 	電子黒板 iPad(指) ・SKYMENU	【関心・意欲・態度】 ・1食分の献立の立て方を理解しようとしている。 (行動観察)
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> スペシャル弁当を考えよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクトチームの弁当を完成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の役割(栄養・彩り・価格・素材など)にあった弁当素材を一つの弁当箱に詰めていく。 			iPad (児) ・MetaMoji Note ・SKYMENU ・写真ファイル 【創意・工夫】 ・栄養バランスや彩りなどを考えながら弁当こん立てを完成すること

		<p>有し、素材選択の幅が広がる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MetaMoji Note を使って一人一人の役割で考えた素材を一つの弁当に詰めていく。素材の必要なところだけを切り取ったり、貼り付けたりすることができ、弁当のできあがりイメージしやすくなる。 		<p>ができる。 （行動観察） （記録作品）</p>
まとめ	<p>○ 完成したスペシャル弁当を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 考えた弁当を電子黒板に提示することで、全体で共有できる。 	<p>電子黒板 iPad（指）</p> <ul style="list-style-type: none"> • SKYMENU • MetaMoji Note 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1食分の献立の立て方について理解している。 （記録作品）

（3）板書計画

<div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>	<p>④スペシャル弁当を考えよう！ プロジェクトチーム名</p> <p>弁当は・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主食：主菜：副菜＝3：1：2 ① <li style="padding-left: 100px;">おかずは3～4品 ② ・栄養のバランス ③ ・彩り ④ ・水気はできるだけ少なく ⑤ ・作る時期を考えて ⑥ ・予算（一人200円まで） ・手間（調理時間は1時間程度）
--	---

第6学年 国語科 学習指導案

授業者 石井 優子

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) ■プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ Keynote
ICT 活用のポイント	○ プレゼンテーション資料を Keynote で作成することで、物語の内容を可視化し、相手にわかりやすく伝えることができる。 ○ 各グループで作成したプレゼンテーション資料を電子黒板に投影して意見を交流することで、それぞれの作品について考えたことを共有することができる。

1 学年・組 第6学年2組 計30名

2 場 所 6年2組教室

3 単 元 名 「海のいのち」

4 目 標

- 表現の細部に着目し、人物の心情を読み取ることができる。
- 理由や根拠を明らかにしながら、自分の考えを書いたり話したりすることができる。
- 立松和平の他の作品を読み、命や人の生き方、考え方について自分の考えを深めることができる。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力
物語に興味を持ち、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考えながら読もうとしている。 作者の他の作品を読み、場面展開や人間関係などの共通性を見つけている。	場面の様子や情景が伝わるように音読している。 場面構成や人物の関係を手がかりに、中心人物の変化を読み取り、物語が自分に最も強く語りかけてきたことをとらえている。 物語を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。	自分が感じたことが相手に伝わるように、構成や文章表現に気をつけてまとめている。

6 指導計画（全 15時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1	・作者がどんな人なのかを知る。 ・「海のいのち」を通読し、各段落の内容について一文を書く。	・電子黒板でデジタル教科書の挿絵を大きく提示しながら範読することで、物語をイメージしやすくする。
2	2 3 4	・9つの観点の中から選んでひとり学びをし、場面の展開を理解し、学習の見通しを持つ。	・見本となるワークシートを SKYMENU から見ることができるようにすることで、子どもが取り組みやすい課題から取り組めるようにする。
	5	・ひとり学びをもとに、学習課題を話し合っ て見つける。	・SKYMENU から他の子どもの考えを必要に応じて閲覧することで、考えを共有したり話し合いをスムーズにしたりする。

3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・第一場面（設定）を読み、父の海への考えを読み取る。 ・ほかの作品の並行読書を始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード機能を使うことで、第一場面の内容を可視化し、わかりやすくまとめることができる。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・第二・三・四場面（展開）を読み、与吉いさの海への考え、太一が与吉いさの死に直面した時の心情、母の制止を聞かずに父の海へ潜った太一の気持ちを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード機能を使うことで、第二、第三、第四場面の内容を可視化し、わかりやすくまとめることができる。また、既習場面にすぐ戻ることができるため、考えを整理し直すことができる。
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・第五場面（山場）を読み、瀬の主と出会ったときの太一の心情を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード機能を使うことで、第五場面の内容を可視化し、わかりやすくまとめることができる。また、既習場面にすぐ戻ることができるため、考えを整理し直すことができる。
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・第六場面（結末）を読み、村一番の漁師であり続けた太一の生き方について読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード機能を使うことで、第六場面の内容を可視化し、わかりやすくまとめることができる。また、既習場面にすぐ戻ることができるため、考えを整理し直すことができる。
4	10 11 12 13	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかの作品を読み、「海のいのち」と比較して考えをまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Keynote でプレゼンテーション資料を作成することで、物語の内容を可視化し、読み取りやすくする。 ・第4次までに学習した内容を SKYMENU に保存しておくことで、ほかの作品と「海のいのち」とを比較しやすくする。
	14 15	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション資料を発表し、意見や感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Keynote で作成したプレゼンテーション資料を活用しながら発表し、一人一人が「自分の生き方」や「いのち」について考えたことを共有し、深めるようにする。

※参考 文：立松和平、絵：横松桃子、『田んぼのいのち』、くもん出版、2001年

文：立松和平、絵：横松桃子、『街のいのち』、くもん出版、2000年

文：立松和平、絵：横松桃子、『牧場のいのち』、くもん出版、2007年

作：立松和平、絵：スズキコージ、『天とくっついた島』、河出書房新社、1997年

7 本時の学習

(1) 目 標

- 作者の作品から読み取ったことや、作品を通して命や人の生き方、考え方について自分が感じたことを表現する。

(2) 展 開

	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導入	○ 学習課題をつかむ。			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">立松和平の作品を通して「自分の生き方」や「いのち」について感じたことを表現しよう。</div> ○ 前時に引き続き、プレゼンテーション資料を作成することを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・中心人物の変容 ・メッセージを強く意識させる叙述 ・『海のいのち』との比較 ・立松和平が作品を通して伝えたかったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに作成したプレゼンテーション資料を提示することで、活動の目的を確認する。 	電子黒板 iPad（指）	

展 開	<p>○ 各グループごとに相手に伝わるようにするためにプレゼンテーション資料を工夫することを話し合う。</p> <p>○ プレゼンテーション資料を作成する。</p>	<p>・Keynote を活用して作成することで、プレゼンテーションの編集が簡単にできる。また、様々な方法を短時間で試すことができ、より伝わりやすくするための工夫がしやすい。</p> <p>・プレゼンテーション資料に内容や考えを表現することで、視覚的に内容をとらえることができ、読み取りが苦手な子どもにもわかりやすく伝えることができる。</p>	<p>電子黒板 iPad（児）</p> <p>・Keynote</p>	<p>【読む能力】</p> <p>・場面構成や人物の関係を手がかりに、相手に伝わるように、構成や文章表現に気をつけてまとめている。 （行動観察・話し合い）</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>・作者の他の作品を読み、場面展開や人間関係などの共通性を見つけている。 （行動観察・話し合い）</p>
ま と め	<p>○ 各グループが作成したプレゼンテーション資料を見て意見を交流し合う。</p>	<p>・各グループで作成したプレゼンテーション資料を電子黒板に投影して意見を交流することで、それぞれの作品について考えたことを共有することができる。</p>	<p>電子黒板 iPad（児）</p> <p>・Keynote</p>	

(3) 板書計画

<p>作成する時のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝えたいことは明確にする。 ・挿絵を工夫して使う。 ・スライドの文字は短くまとめる。 ・グループならではの工夫を一つ入れる。 	<p>④ 立松和平が作品を通して伝えたかったこと</p>	<p>③ 『海のいのち』との共通点、相違点</p>	<p>② メッセージを強く意識させる叙述</p>	<p>① 中心人物の変容</p>	<p>スライドに入れる内容</p>	<p>海のいのち</p> <p>立松 和平</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>立松和平の作品を通して「自分の生き方」や「いのち」について感じたことを表現しよう。</p> </div>
---	------------------------------	---------------------------	--------------------------	------------------	-------------------	--

なかよし学級 生活単元学習の指導 学習指導案

授業者 河野悦子 生田一恵 吉川達也

《ICT の活用》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> 個別学習
ICT 活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT 活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT 活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input checked="" type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input checked="" type="checkbox"/> 学習の振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末(iPad) <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末(iPad mini) <input type="checkbox"/> その他（ ）
活用コンテンツ等	<input type="radio"/> ロイロノート <input type="radio"/> 写真ファイル
ICT 活用のポイント	<input type="radio"/> ロイロノートで作業の手順を一つ一つスライドにして、作業中いつでも見て確かめることができる。また、役割を決めて手順のスライドに名前を書き込んでいくことで、役割を確認しやすくする。 <input type="radio"/> 活動している様子を写真で撮影し、振り返ることで、自分や友だちのがんばりを認め合ったり、友だちと協力して活動できたことを確かめたりする。

1 学年・組 なかよし学級 計13名 (1年2名・3年2名・4年4名・5年2名・6年3名)

2 場 所 家庭科室

3 単 元 名 「たべたいな ポップコーン」

4 目 標

○ 友だちと協力してとうもろこしを育てることができる。

○ 友だちと協力してポップコーンを作ることができる。

5 児童の実態

児童	児童の実態
A児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・話をよく聞き、活動できる。 ・活動に意欲的に取り組み、楽しんで参加することができるが、何かがきっかけでやる気をなくしたり、友だちとトラブルになったりすることがある。
B児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容はある程度理解できるが、次の活動に移るには支援を必要とすることが多い。 ・活動に意欲的に取り組み、楽しんで参加することができる。
C児 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・指示を聞いて活動できるが、集中力が続かず聞き落したり、十分に理解できなかったりすることがある。 ・活動に意欲的に取り組み、楽しんで参加することができる。
D児 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・話をしっかりと聞き活動できる。 ・活動に意欲的に取り組み、いろいろな仕事を積極的に行うことができる。年下の子に対して優しく接することができる。
E児 (4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・話を最後まで聞くことが苦手で、集中する時間が短く、他のことに気を取られてしまう。話の内容はほぼ理解できる。次の活動に移るには支援を必要とする。 ・楽しい雰囲気を好み、進んで参加することができる。
F児 (4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容はほぼ理解できるが、次の活動に移るときに支援を必要とすることがある。 ・みんなと楽しんで活動できるが、何かがきっかけでやる気をなくしてしまうことがある。
G児 (4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いて進んで活動できる。 ・いろいろな仕事を積極的に行うことができるが、何かがきっかけでやる気をなくしたり、友だ

	ちとトラブルになったりすることがある。
H児 (4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・話をよく聞いて意欲的に活動に取り組み、いろいろな仕事を積極的に行うことができる。 ・みんなと協力できて、友だちに優しく接することができる。
I児 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの前で話ができ、意欲的に活動に参加することができる。いろいろな仕事を中心になって積極的に行うことができる。
J児 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いて活動できるが、集中できず、他のことに興味を移してしまうことがある。 ・楽しい雰囲気を好み、進んで参加することができるが、何かがきっかけでやる気をなくしたり、友だちとトラブルになったりすることがある。
K児 (6年)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に意欲的に取り組み、いろいろな仕事を積極的に行うことができる。年下の子に対して優しく接することができる。 ※食物アレルギー体質のため個別の調理器具を使用する。
L児 (6年)	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年としてみんなの前で話をし、積極的に活動している。しかし、自分がこうだと思おうと人の言うことを受け入れられなくなることがある。
M児 (6年)	<ul style="list-style-type: none"> ・人前で話をすることが苦手だが、緊張しながらも自分の考えを伝えることができるようになってきている。 ・活動に意欲的に取り組み、いろいろな仕事を積極的に行うことができる。年下の子に対して優しく接することができる。

6 指導計画（全15時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1 9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・とうもろこしを友だちと協力して育てる。 土起こし 種まき 水やり 草抜き 支柱立て 間引き 袋かけ 収穫 乾燥 ・これまでの活動やとうもろこしの生長の様子をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とうもろこしの生長や友だちの活動の様子を撮影することで、とうもろこしの生長を確かめ、栽培活動への意欲を高めることができる。 ・撮影してきた写真をもとにまとめることで、とうもろこしの生長を確かめたり、活動を振り返ったりする手立てとする。
2	12 13 14 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad mini を活用してポップコーンの作り方を調べる。 ・ロイロノートで作り方を一つ一つスライドにする。 ・ポップコーンを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して、簡単に作り方を調べることができる。 ・作り方の手順を段階的にスライドにまとめていくことで、活動への意欲を高めることができる。 ・ロイロノートにまとめた作り方の手順を、作業中自由に見て確かめることができる。
3	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップコーンを作って、担任の先生やお世話になった人にプレゼントする。 	

7 本時の学習

(1) 目 標

○ ポップコーン作りに興味を持ち、友だちと協力して楽しくポップコーンを作ることができる。

(2) 個々の目標

児童	目標
A児・B児・C児・D児・ E児・F児・G児・H児	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの説明を聞き、ポップコーンの作り方を知ることができる。 ・手順のスライドを見ながら友だちと協力して、ポップコーンを作ることができる。
I児・J児・K児・ L児・M児	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップコーンの作り方をみんなに説明することができる。 ・手順のスライドを見ながら友だちと協力して、ポップコーンを作ることができる。 ・役割決めやポップコーン作りで中心となって活動することができる。

(3) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ はじめのあいさつをする。 ○ 本時のめあてを確認する。 			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">力を合わせてポップコーンを作ろう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の流れを確認する。 ○ 5・6年生が作り方を説明し、1・3・4年生はその説明を聞いたりスライドを見たりして、作業の手順を知る。 ○ 安全面での注意事項を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで作成した作り方のスライドを電子黒板に提示することで、手順を分かりやすくする。 	電子黒板 iPad mini(児) ・ロイロノート	【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・スライドを見ながら説明している。(行動観察) ・友だちの説明を注意して聞いている。(行動観察)
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班に分かれてポップコーンを作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・調理の役割決め ・調理器具の準備 ・材料の計量 ・調理 ○ できあがったポップコーンを食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班に一つ iPad mini を持ち作り方の手順を確認しながら作業を進めることができる。 ・役割を決めて手順のスライドに名前を書き込んでいくことで、自分の役割を確認しやすくする。 	iPad mini(児) ・ロイロノート	【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと関わりながら取り組んでいる。(行動観察) 【技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・手順を見ながら、進んで取り組むことができる。(行動観察)
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちのがんばったところの発表 ○ 後片付けをする。 ○ 終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動の様子を撮影した写真を、電子黒板を活用して映し出すことで、自分のがんばりだけでなく、友だちのがんばりを認め合ったり、友だちと協力して活動できたことを確かめたりする手立てとする。 	iPad (指) 電子黒板 ・写真ファイル	【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちのがんばったところを発表したり、他の友だちの発表に興味を持って聞いたりしている。(行動観察)

(3) 板書計画

